

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0192500015		
法人名	有限会社 アマランス		
事業所名	グループホーム あまらんす		
所在地	余市郡赤井川村字赤井川409番地1		
自己評価作成日	平成22年10月15日	評価結果市町村受理日	平成22年11月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の中で生きていくということは、赤井川の住民として、受け入れてもらえる事かと思えます。利用者の方がお一人で散歩に出かけられた時や災害時等に快く協力を得られるように、地域の方と顔見知りになり、ともに介護支援をしていけるようになるよう努力しています。

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0192500015&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成22年10月28日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム あまらんす」は周囲の四季が見渡せる見晴らしの良い環境に立地している。建物内は明るく開放感があり、掃除も行き届いて清潔である。当事業所は開設4年を経過する中で、地域との関係作りを積極的に進めている。運営推進会議ではメンバーに相談しながら話し合った内容を運営に反映させている。地域の行事に利用者と職員も積極的に参加し、事業所の行事や避難訓練にも住民の協力があり、徐々に地域に受け入れられている。今後もさらに交流する機会を多く持ち、相互の関係を深める姿勢で臨んでいる。管理者は職員の育成を重視し、段階に応じた研修プログラムを立てており、内部研修も充実している。職員は理念に沿って利用者の尊厳を常に話し合いながらケアの実践に努めている。重度化している利用者が多い中で、お花見や日帰り温泉、果物狩りやカルデラ味覚祭、倶知安の金毘羅祭りなどの外出行事が多く、日光浴や近隣の散歩、気軽にドライブなどで外に出る機会を積極的に作っている。職員間で相談しながらケアを高めるチームケアの効果が明るい笑顔のある雰囲気となり、利用者も笑顔で穏やかに過ごしている。

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)		項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します	
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	普段、自分たちが実践している介護がどういった想いのもとにされているのか自分自身に問いかけ、それぞれ出し合い、共有できる理念を作り上げた。皆の利用者・仕事への想いがある。	運営理念の「おたがいさま」を基に、利用者の尊厳を重視し笑顔をもって生活するという内容に、地域とのつながりの文言を加えた介護理念を作り上げている。利用者の気持ちになって考える体験研修も行い、日々理念の実現に向けて実践している。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の一員として、村祭りにも神輿担ぎ、接待係と協力、また、村内の文化祭にも作品を出品し、その作品を通じて交流を深めたり、高齢者交流会等で招待されるだけでなく、スタッフ利用者の、唄や踊りで地域の方と交流を深めている。	地域の文化祭や高齢者交流会に参加し、保育所や小、中学校と行事を通しての交流など、地域に積極的に溶け込む姿勢で地道な活動を進めている。事業所の夏祭りには大勢の参加者の下、住民にも喜ばれており、徐々に事業所や利用者への理解が深められている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	村の高齢者交流会等の手伝いで、スタッフや利用者が、皆の中に自然に入り、支援していくことで認知症についての理解を少しずつでも深められたらと考えている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	グループホームの状況報告をし、地域の一員として受け入れていただくための貴重な意見や協力を得る場となっている。	運営推進会議には町内会の役員のほかに行政職員も参加し、行事の報告と反省会、避難訓練の協力体制など活発な意見交換になっている。参加者に相談するように働きかける中で貴重な意見が得られ、それらを運営に活かしている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	村の担当の方には、連携してこまめにアドバイスをもらい日々の向上に努めている。今回は、村のデイサービスの研修を受け入れ、質問や率直な意見を頂戴している。	行政の担当者とは運営推進会議以外にも電話や訪問で常に相談できる関係を築いている。村が運営するデイサービスの実習の場として事業所を提供し、サービス向上のため双方で取り組んでいる。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修時に身体拘束についての説明やケアについて常に話し合いながら取り組んでいる現在、身体拘束は基本的に行っていない。そのために起こりうる事故等についてもスタッフや家族と話合うようにしている。	身体拘束・虐待についての委員会を設置し、グループワークで事例を基に身体や言葉の拘束について学習している。マニュアルを作成し、新人研修で管理者が言葉遣いや対応についても徹底して指導している。日中は玄関のカギを開けておき、利用者が束縛を感じないように職員の連携で見守っている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	グループホームの理念のもと職員の意識は高いが、委員会を設け、虐待となる以前の不適切ケアの段階で解決していけるよう事例検討等で常に職員の間で、問題意識を持つようになっている。家族の虐待にも注意を払っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後、当施設でも必要となってくることであるので、研修会に参加し、活用できるよう取り組んでいる。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、重要事項説明書・契約書を読む際、詳しく説明し、理解・納得していただけるように努めている。また、解約の際も利用者の立場に立ち、不安・不満のないよう、納得していただけるように、家族の方との連絡を細かくしている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者一人ひとりが意見等を伝えられる雰囲気や大切にしている。また、利用者の方の様子から察し、スタッフがやさしい心を持って、不満なことや要望等を引き出すように努めている。その意見を受けたスタッフはすぐに管理者に報告、対応する事を徹底している。	家族の来訪時には意見を言いやすいような雰囲気作りや気を配っている。意見などは連絡ノートに記録し内容を共有している。「苦情対応表」には取り上げた理由を載せ、カンファレンスで話し合い、家族の身になって考えて対応することを重視し改善につなげている。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや研修、各委員会で意見をすくい上げ、できる限り反映させるよう努力している。	年に1回は個人の年間目標なども話し合い、職員の希望や方向付けを確認している。職員の希望や状況を勘案しながら勤務表なども考慮している。毎月のミーティングでは意見を交換し、業務の改善や介護計画に提案を取り入れている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本人の得意分野を生かし、適材適所に配置したり、家庭環境に合わせた労働時間の配慮をしている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が外部の研修を受けられるよう勤務を組んだり、常、日頃、職員の育成に努めている。段階に応じた育成プログラムに沿って進めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者間のネットワークに入会し、研修会に参加している。また、各事業所ごとに事例研修があるが、そこで、発表したり聞いたりして学習している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者やケアマネのみならず、全てのスタッフが理念にそった介護をしながら、情報収集し、それを共有し、チームケアにより、本人を安心させていく。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの話や、相談には対応している。いつでも、電話や訪問による相談を受け付けている。また、管理者が対応できないときは、職員が引き継ぎ対応している。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	具体的には、病院選びや、買い物などが多いが、随時支援できるように対応している。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者さん一人ひとりの生活歴を踏まえ、会話から得意なことを知り、日々に生かせるものは、スタッフが「教えていただく」との立場で一緒に生活している。		
19		本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	細かなことでも家族と連絡を密にし、協力体制を取っている		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	遠方から来られている利用者の方が多いため、家族の方に連れて行っていただく以外はできないが、通院・ドライブの際に少し遠回りをして、自分の住み慣れた街等を通ったりするようにしている。	家族の協力を得ながら、お墓参りや外泊を支援している。通院の帰りに自宅周囲に立ち寄り、また、馴染みの店での買い物に職員が同行することもある。以前からのお付き合いが途切れないように、宗教関係の来訪者がある場合なども自室で歓談できるように配慮している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフが間に入り、話題を盛り上げたり、散歩やお手伝いのグループ分けを配慮しながら、かかわりが持てるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	窓口はあけておりますが、契約終了時には、これまでの関係性を大切に、きちんと対応してきていますので、今のところ相談はなしです。また、他施設に移った場合等こちらから連絡を取るの、失礼かと思えます。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプランやモニタリングのアセスメントの際、ご本人の要望や困り事を伺っています。また、必要に応じて、ご本人の訴えに親身になってお話を伺っています。	ケアプラン委員会を設置し、利用者の暮らしや趣味の情報を基に利用者 と話し合い、その思いを計画に盛り込んでいる。発語が難しい場合は常に話しかけ、その反応から思いを探って職員間で情報を共有している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居される以前に利用されていた事業所の方より、フェイスシートをいただいておりますが、日常会話の中からこれまでの様子を伺ったり、不明な点を家族に尋ねるなどして配慮しています。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	夜勤者から早番へ、早番から遅番へ、利用者お一人お一人の過ごし方を日誌やバイタルチェック表に記録し、早く知らせたい状況の変化は連絡ノートに記録し、職員全員に共有されています。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常会話の中から利用者さん本人にとって何をお手伝いすればスムーズに気持ち良く生活できるのか常に話し合っています。	介護計画は事前の情報も参考に、暫定の計画を1ヶ月以内に作成している。3ヶ月ごとにカンファレンスで評価し、状態に変化がない場合は6ヶ月ごとに計画を作成している。介護記録や職員の意見を集約し詳細な介護計画が作成されているが、モニタリング表などに充足を必要とする面もみられる。	介護計画の新規作成の場合は1ヶ月以内に暫定を見直して本プランに移行するなどの検討を期待したい。また、記録からの状態把握をモニタリング表などを活用し、職員が把握しやすい工夫の検討も期待したい。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や、気付き等は、スタッフの連絡ノート等で把握するようにしていますが、個別記録簿等にもれなく記入されているかどうか不安な面もあります。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	温泉施設を自社で運営管理しているため、ご家族、利用者さん、スタッフとの交流会に温泉施設を貸切し、親交を深めている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	村内にある消防や区会の方々には、日頃より協力を、ご指導いただいている。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	18町村と協定しているため、遠方の方が多い。入居前のかかりつけ医と連携を取りながら、施設の協力医と相談している。また、協力病院はもとより今までのかかりつけ医へはできるだけ通い、そのまま健康管理していただけるようにしています。	遠方から入居した場合は受診先を相談して変更することもあるが、基本的には以前からのかかりつけ医の受診を継続している。通院時には職員が同行し、看護師からの「連絡票」にて主治医に報告し、その結果も記録し受診結果を共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	スタッフからの報告を受け、看護師が定期的に利用者さんとかかわり、相談を受けたり、励ましたりしている。また、主治医に連絡をとったりして、適切な指示を介護職員にしている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院している病院へお見舞いに伺い、元気になるよう声かけをしています。また家族とも密に連絡をとりあっています。病院にもムンテラをお願いしたり、家族と共に等連携を取り合っている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化している家族には、こまめに連絡を取り合い、面会時には日常生活をより具体的に説明し、終末期も近づいた場合は、どうするかをターミナルケアの書式を作成し、確認します。	利用契約時に看取りについての対応方針を文書で説明し、状態の変化に応じてその都度、主治医、家族と対応について確認し方針を共有している。終末期には嚥下障害など、医療的な処置が継続する場合は入院方向も含めた詳細な内容で再確認し同意を得ている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	過去に何度か急変があり、皆で学習し、初期対応の仕方を身につけてきている。実践力を身につけてきている。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近所の方には、日頃から、何かあれば、協力していただけるよう、相談している。	昨年は消防署の指導の下で利用者や近隣の方も参加し、日中、夜間、冬季と実際の訓練を3回実施した。災害時の備蓄品などは準備しているが、火災以外の訓練は検討中である。	地震などの災害についても職員間でシュミレーションを行い、避難の安全性などを確認するような取り組みに期待したい。
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念にあるように尊厳を大切にしている。個人情報に関しては、日々事あるごとに、スタッフにプライバシーの保護を徹底するよう統一している。	人格の尊重、言葉かけについて文章化したものを職員に配布し意識付けを行うとともに、日々の対応で気になる点を職員同士、注意し合うことを日常化している。利用者などに漏れ伝わらないよう、名前を特定できない記号を用いミーティングを行っている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	耳の聞こえない方や、理解が難しい方には、顔の表情を見ながら、ジェスチャーや筆記等を行い、なるべく自己決定していただき、ストレスを感じないようにしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常において日々の行事等はあるものの、無理強いしたりせず、時間をおいて、再度声かけする等工夫し、お一人おひとりのペースを尊重している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自立されている方には、買い物・理容・美容に出かけられるよう支援しているが、介助が必要な方には、訪問の理美容で、おしゃれしていただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい献立・物を伺い、できる範囲内で希望の食事を作り、召し上がっていただいている。茶碗洗いや茶碗拭き、テーブル拭き等無理のない程度に行っていただいている。	献立は厨房委員会の職員が利用者に希望を聞いて好みを反映させ立案している。重度化の利用者が多いが、できる範囲で食事一連の作業に参加している。患方巻などの季節の行事食や外食を取り入れ、食事を楽しむことを大切に支援している。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分・食事の摂取量を記入しており、1人1人に合わせて支援できる。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの研修を毎年受け、各々の利用者に応じたケアに努めている。舌専用のブラシも使用し、口臭対策をしている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	お一人お一人の排泄パターンを把握し、排泄チェック表を常に確認し、便座に座っていただき、気持ちよく排泄できるように支援している。	水分量・トイレ回数などをチェック表に記録し、日々様子から排泄パターンを掴み把握している。全介助の利用者にあっても日中帯はリハビリパンツを用い、トイレでの排泄をサポートしている。失禁時はさり気ない声かけをして、他者に伝わらないよう配慮している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄に関しては排泄チェック表で確認し予防対応に取り組んでいる。スタッフ皆で工夫しており、水分補給・食物繊維を取り入れた食事作り等で自然排泄を促している。体質的に便秘の方には各々に応じて取り組んでいる。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日や時間など、本人の意思を尊重して、気持ちよく入浴していただけるよう支援している。	最低週2回、午後からの入浴設定ではあるが、曜日を問わず毎日湯を沸かし、希望を聞いて対応している。入浴に対して拒否や敏感な利用者へはさり気なく、また落ち着くような入浴の声かけをして、本人の流れ(気持ち)に沿って支援している。入浴が困難な場合は、清拭やドライシャンプーなどで清潔保持を支援している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	不穏にならずに安眠できるよう、スタッフはやさしい気持ち・穏やかな気持ちで接するよう心がけている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の重要性や危険性は理解しているものの、スタッフ全員が目的や副作用を理解しているとはいえない。ただ、本人の飲んでいる薬が変更・休薬になったりにはスタッフは敏感に反応し対応している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ゆっくりお話したり、皆と一緒にできないことを通院の帰りにする。(ドライブ・食事・買い物等)		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	可能な限り行っている。本人の希望があり、スタッフが支援できない場合は、家族に相談し、できる限り本人の希望に添えるよう支援している。	行事的な外出では、家族会を兼ねたお花見や日帰り温泉、果物狩りやカルデラ味覚祭、倶知安の金毘羅祭りなど、目的を有しながら様々な場所へ出向いている。天候の良い時は、庭先での日光浴や近隣の散歩、ひまわり畑の鑑賞や牧場見学をしに気軽にドライブを楽しみつつ、名物を味わい楽しみにつなげている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者に応じ、行っている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙やはがきは来ていて、喜ばれているが、本人から返信の希望はない。電話での連絡は本人の、希望時にかけている。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感や生活感を大切に、気持ちよく過ごせるよう工夫はしている。	玄関はフード扉を始め玄関ドアも引き戸で解放感があり、手洗いうがいコーナーを設けて感染予防に配慮がなされている。居間の窓からは自然の景色が映し出され、四季を感じる事ができる。昔の調度品をさり気なく要所に設えたり、全体的に清潔を保ち、居心地の良さが窺える。廊下にセミパブリックスペースの設置や身体機能に配慮して2タイプの洗面所の設置がなされている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやいす等を多めに配置し、思い思いに過ごせるよう配慮している。廊下の奥に椅子テーブルを置いたり、玄関前にも椅子を置き、一人になれる空間や仲間との居場所等配慮している。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居する際に使い慣れた物を持って来て頂くようお願いし、本人の生活に一番合ったお部屋になるよう支援している。	居室内は収納容量のあるクローゼットを設置して中にタンスを納めるなど自室空間を広めに取り、車椅子での動作などに配慮がなされている。馴染みの家具の配置やカレンダー、思い出の写真などを本人や家族と相談しながら設え、安心できる居室作りを支援している。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室の表札には利用者さんご自身の写真を入れ、覚えて頂いたり、お手洗いの目印を付け、混乱のないようにしている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0192500015		
法人名	有限会社 アマランス		
事業所名	グループホーム あまらんす		
所在地	余市郡赤井川村字赤井川409番地1		
自己評価作成日	平成22年10月15日	評価結果市町村受理日	平成22年11月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「大地ユニット」に同じ

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0192500015&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成22年10月28日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)			

(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	普段、自分たちが実践している介護がどういった想いのもとにされているのか自分自身に問いかけ、それぞれ出し合い、共有できる理念を作り上げた。皆の利用者・仕事への想いがわかる。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	町内会の一員として、村祭りにも神輿担ぎ、接待係と協力、また、村内の文化祭にも作品を出品し、その作品を通じて交流を深めたり、高齢者交流会等で招待されるだけでなく、スタッフ利用者の、唄や踊りで地域の方と交流を深めている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	村の高齢者交流会等の手伝いで、スタッフや利用者が、皆の中に自然に入り、支援していくことで認知症についての理解を少しずつでも深められたらと考えている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	グループホームの状況報告をし、地域の一員として受け入れていただくための貴重な意見や協力を得る場となっている。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	村の担当の方には、連携してこまめにアドバイスをもらい日々の向上に努めている。今回は、村のデイサービスの研修を受け入れ、質問や率直な意見を頂戴している。		
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修時に身体拘束についての説明やケアについて常に話し合いながら取り組んでいる現在、身体拘束は基本的に行っていない。そのために起こりうる事故等についてもスタッフや家族と話し合っている。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	グループホームの理念のもと職員の意識は高いが、委員会を設け、虐待となる以前の不適切ケアの段階で解決していけるよう事例検討等で常に職員の間で、問題意識を持つようになっている。家族の虐待にも注意を払っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後、当施設でも必要となってくることであるので、研修会に参加し、活用できるよう取り組んでいる。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、重要事項説明書・契約書を読む際、詳しく説明し、理解・納得していただけるように努めている。また、解約の際も利用者の立場に立ち、不安・不満のないよう、納得していただけるように、家族の方との連絡を細かくしている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者一人ひとりが意見等を伝えられる雰囲気大切にしている。また、利用者の方の様子から察知し、スタッフがやさしい心を持って、不満なことや要望等を引き出すように努めている。その意見を受けたスタッフはすぐに管理者に報告、対応する事を徹底している。		
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや研修、各委員会で意見をすくい上げ、できる限り反映させるよう努力している。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本人の得意分野を生かし、適材適所に配置したり、家庭環境に合わせた労働時間の配慮をしている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が外部の研修を受けられるよう勤務を組んだり、常、日頃、職員の育成に努めている。段階に応じた育成プログラムに沿って進めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者間のネットワークに入会し、研修会に参加している。また、各事業所ごとに事例研修があるが、そこで、発表したり聞いたりして学習している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>管理者やケアマネのみならず、全てのスタッフが理念にそった介護をしながら、情報収集し、それを共有し、チームケアにより、本人を安心させていく。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>家族からの話や、相談には対応している。いつでも、電話や訪問による相談を受け付けている。また、管理者が対応できないときは、職員が引き継ぎ対応している。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>具体的には、病院選びや、買い物などが多いが、随時支援できるように対応している。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>利用者さん一人ひとりの生活歴を踏まえ、会話から得意なことを知り、日々に生かせるものは、スタッフが「教えていただく」との立場で一緒に生活している。</p>		
19		<p>本人を共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>細かなことでも家族と連絡を密にし、協力体制を取っている</p>		
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>遠方から来られている利用者の方が多いため、家族の方に連れて行っていただく以外はできないが、通院・ドライブの際に少し遠回りをして、自分の住み慣れた街等を通ったりするようにしている。</p>		
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>スタッフが間に入り、話題を盛り上げたり、散歩やお手伝いのグループ分けを配慮しながら、かかわりが持てるようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	窓口はあけておりますが、契約終了時には、これまでの関係性を大切に、きちんと対応してきていますので、今のところ相談はなしです。また、他施設に移った場合等こちらから連絡を取るの、失礼かと思えます。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプランやモニタリングのアセスメントの際、ご本人の要望や困り事を伺っています。また、必要に応じて、ご本人の訴えに親身になってお話を伺っています。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居される以前に利用されていた事業所の方より、フェイスシートをいただいておりますが、日常会話の中からこれまでの様子を伺ったり、不明な点を家族に尋ねるなどして配慮しています。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	夜勤者から早番へ、早番から遅番へ、利用者お一人お一人の過ごし方を日誌やバイタルチェック表に記録し、早く知らせたい状況の変化は連絡ノートに記録し、職員全員に共有されています。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常会話の中から利用者さん本人にとって何をお手伝いすればスムーズに気持ち良く生活できるのか常に話し合っています。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や、気付き等は、スタッフの連絡ノート等で把握するようにしていますが、個別記録簿等にもれなく記入されているかどうか不安な面もあります。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	温泉施設を自社で運営管理しているので、ご家族、利用者さん、スタッフとの交流会に温泉施設を貸出し、親交を深めている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	村内にある消防や区会の方々には、日頃より協力、ご指導いただいている。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	18町村と協定しているため、遠方の方が多い。入居前のかかりつけ医と連携を取りながら、施設の協力医と相談している。また、協力病院はもとより今までのかかりつけ医へはできるだけ通い、そのまま健康管理していただけるようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	スタッフからの報告を受け、看護師が定期的に利用者さんとかかわり、相談を受けたり、励ましたりしている。また、主治医に連絡をとったりして、適切な指示を介護職員にしている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院している病院へお見舞いに伺い、元気にいられるよう声かけをしています。また家族とも密に連絡をとりあっています。病院にもムンテラをお願いしたり、家族と共に行く等連携を取り合っている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化している家族には、こまめに連絡を取り合い、面会時には日常生活をより具体的に説明し、終末期も近づいた場合は、どうするかをターミナルケアの書式を作成し、確認します。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている	過去に何度か急変があり、皆で学習し、初期対応の仕方を身につけてきている。実践力を身につけてきている。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近所の方には、日頃から、何かあれば、協力していただけるよう、相談している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念にあるように尊厳を大切にしている。個人情報に関しては、日々事あるごとに、スタッフにプライバシーの保護を徹底するよう統一している。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	耳の聞こえない方や、理解が難しい方には、顔の表情を見ながら、ジェスチャーや筆記等を行い、なるべく自己決定していただき、ストレスを感じないようにしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常において日々の行事等はあるものの、無理強いしたりせず、時間をおいて、再度声かけする等工夫し、お一人おひとりのペースを尊重している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自立されている方には、買い物・理容・美容に出かけられるよう支援しているが、介助が必要な方には、訪問の理美容で、おしゃれしていただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい献立・物を伺い、できる範囲内で希望の食事を作り、召し上がっていただいている。茶碗洗いや茶碗拭き、テーブル拭き等無理のない程度に行っていただいている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分・食事の摂取量を記入しており、1人1人に合わせて支援できる。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの研修を毎年受け、各々の利用者に応じたケアに努めている。舌専用のブラシも使用し、口臭対策をしている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	お一人お一人の排泄パターンを把握し、排泄チェック表を常に確認し、便座に座っていただき、気持ちよく排泄できるように支援している。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄に関しては排泄チェック表で確認し予防対応に取り組んでいる。スタッフ皆で工夫しており、水分補給・食物繊維を取り入れた食事作り等で自然排泄を促している。体質的に便秘の方には各々に応じて取り組んでいる。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日や時間など、本人の意思を尊重して、気持ちよく入浴していただけるよう支援している。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	不穏にならずに安眠できるよう、スタッフはやさしい気持ち・穏やかな気持ちで接するよう心がけている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の重要性や危険性は理解しているものの、スタッフ全員が目的や副作用を理解しているとはいえない。ただ、本人の飲んでいる薬が変更・休薬になったりにはスタッフは敏感に反応し対応している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ゆっくりお話ししたり、皆と一緒にできないことを通院の帰りにする。(ドライブ・食事・買い物等)		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>可能な限り行っている。本人の希望があり、スタッフが支援できない場合は、家族に相談し、できる限り本人の希望に添えるよう支援している。</p>		
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>利用者に応じ、行っている。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>手紙やはがきは来ていて、喜ばれているが、本人から返信の希望はない。電話での連絡は本人の、希望時にかけている。</p>		
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節感や生活感を大切に、気持ちよく過ごせるよう工夫はしている。</p>		
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ソファやいす等を多めに配置し、思い思いに過ごせるよう配慮している。廊下の奥に椅子テーブルを置いたり、玄関前にも椅子を置き、一人になれる空間や仲間との居場所等配慮している。</p>		
54	20	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居する際に使いなれた物を持って来て頂くようお願いし、本人の生活に一番合ったお部屋になるよう支援している。</p>		
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>自室の表札には利用者さんご自身の写真を入れ、覚えて頂いたり、お手洗いの目印を付け、混乱のないようにしている。</p>		

目標達成計画

事業所名 グループホーム あまらんす

作成日：平成 22年 11月10日

市町村届出日：平成 22年 11月22日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	13	・管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や働きながらトレーニングしていくことを進めていくというが、外部に出て同じ研修を一斉に受けるのは難しい。	・介護スタッフとしてふさわしい接遇で、人に接していくよう、皆で努力していく	・挨拶の徹底・・・どうい挨拶が、心地よいのかお互いにし合ってみる。人より先に明るくきちんと気持ちを込めて挨拶をする。	~ H23.3
		・きちんとした接遇を学びたいというスタッフの声が多く出た。挨拶・言葉づかい・態度・声かけ・答え方・・・お茶の出し方等スタッフ間でいろいろ言い合い、切磋琢磨も必要だがきちんとしたものを学ぶのも必要なことなのではないか	・介護スタッフとしてふさわしい接遇で、人に接していくよう、皆で努力していく	・マナーについての研修を持つ。・・・外部から講師を招き、全員で研修を受ける機会を持つ。	(11月25日)
		〃	〃	・適切な言葉かけとはどんなものなのか...虐待拘束防止委員会を中心に不適切ケアについての事例を学習しながら、ふさわしくない言葉など、お互いの言葉づかいについて話し合っていく。また、お互いが注意し、高め合っていけるような仲間づくりを進めていく。	~ H23.3
2	26	・モニタリングの記録が少ない。きちんと記録として残していく。	・モニタリングは月一回し、きちんと記録していく	・一人ひとりの物を作って記録していく ・担当者が責任を持って記録していく	~ H23.1
3	35	・火災の際の避難訓練は行っているが、地震を想定したものがない。	・地震の際の避難についてシュミレーションができる	・スタッフ会議で地震の際は、どんなことに気をつけるべきかを話し合う ・実際に想定したもので、行ってみる	~ H23.3

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。